

(様式 1)

# 令和 4 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第三吾嬬小学校
校長名	川中子 登志雄

## 1 本校の学力に関する状況

### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度に目標指標として定めた標準スコア 52.0 を達成した学年教科は、17 教科中 10 教科と、昨年度より 3 教科増加した。また、標準スコア 50.0 を下回った教科は昨年度の 7 教科から 1 教科と減少した。特に今年度の補強ポイントとした理科は、3 学年の平均で 46.7 から 53.0 と 6.3 ポイントの上昇となった。</li><li>・観点別の指標では、目標値及び全国平均値をともに超えることを目標としたが、51 項目中 45 項目で達成し、昨年度の 32 項目から 13 項目の増加となった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・標準スコア 50.0 に満たなかった学年教科は、4 年社会 (48.5) であり、今後の補強ポイントといえる。社会科における「ふりかえりシート」等の取組をより強化していきたい。</li><li>・観点別で目標値及び全国平均値に到達しなかったのは、4 年社会の 3 観点、3 年国語の「知識・理解」であった。3 年国語では漢字の習得に大きな課題が見られた。</li></ul>

### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・5 年生では「まちがえたテストのやり直し」に関する肯定率が 84.4%と全国平均を 4.5P 上回っており、C 層 D 層の底上げにつながっている。</li><li>・ノートの工夫に関する設問への肯定率は、6 年生で 80.0%と全国平均を 6.5P 上回っており「三吾スタンダード」による継続的な指導の成果が表れている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・2 年生、3 年生においては「学習習慣」「学習意欲」とともに、標準スコアが全国平均を 1 P 程度下回った。「三吾小家庭学習のすすめ」等を活用して主体的な学習習慣を確立したい。</li><li>・ノートの工夫に関する設問への肯定率を学級別にみると 58.1%から 86.2%までの格差があった。ノート指導を通じた授業改善策を徹底するとともに若手教員への研修も進めたい。</li></ul>

### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・全国学力学習状況調査での平均正答率は国語 67% (全国平均比+1.4P) 算数 64% (+0.8P) 理科 65% (+1.7P) と、同等以上の結果であった。また、3 教科とも中央値が全国平均、都平均を上回っており中間層の底上げができたと見ることができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・全国学力学習状況調査の校内平均正答率を都平均と比較すると国語 (-2P)、算数 (-3P)、理科 (±0P) であった。問題形式別にみると算数の記述式で都平均比 (-4.8P) 全国平均比 (-2.3P) となっており強化ポイントといえる。また四分位で見ると、第 1 四分位が国語・算数で全国値を 1.0 問下回っており、学力下層への対応が課題と言える。</li></ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学力向上委員会を中心にした組織的な「振り返り学習」の徹底
----------------------------------

- ・ 学力向上委員会が策定する「学力向上計画」に基づいて、適切に「ふりかえり期間」の取組内容を実施する。今年度3月の取組では、社会の振り返りを重点とする。
- ・ 「Web 支援システム」の情報を活用し、適切な「ふりかえりシート」を厳選して家庭学習の課題として取り組ませるとともに、授業初めの5分間で解説し、定着を図る。
- ・ Teams を活用し、「すみ研チャンネル」を設置し、すみだ教育研究所からの情報を適切に周知・活用する。また「学力向上チャンネル」で、学力向上の取組について共通理解を図る。
- ・ 1月に全学年で学力調査（社会・理科）を実施し、その結果を分析し、3月の「学習ふりかえり期間」において指導の重点を明確にした取組を進める。
- ・ 家庭学習の補完教材として「ミライシード」等、ICT教材の有効活用を図る。

## (2) 個に応じた学習支援

- ・ S S T（スクールサポートティーチャー）及び学校支援指導員を、3年生以上の算数習熟度別指導下位グループに週5時間程度配置し、D層E層の児童に対する個別の支援を充実させる。また、1年生は各クラス週3時間程度、2年生は各クラス2時間程度S S T、学校支援指導員を配置し、D層E層の学習支援に当たる。
- ・ 上記の支援についての記録を取り、各担任と支援者が連携することにより有効な手立てを共有する。
- ・ C層児童を対象にした「放課後すみだ塾」では、各学年の学力向上委員会を中心に適切な学習課題を選定して学習に取り組みさせることで、基礎的基本的事項を定着させるとともに、学習意欲の向上を図る。

## (3) 主体的に課題解決に取り組む「学び方」の定着

- ・ 校内研究のテーマを「自分の考えを表現する力を育てる算数科の授業」とし、年間6回の授業研究等を通して授業改善を進める。
- ・ 児童にタブレット端末を、鉛筆やノート、教科書、辞書のような学習の「道具」として日常的に活用させ、学習意欲の向上を図り、他者との交流に主体的に関わるようにさせる。
- ・ タブレット端末の機能を、思考を整理し深める道具として活用させることで、課題解決のプロセスとしての児童の思考パターンの定着を図り、学習過程に見通しをもたせる。
- ・ 一律に課す「宿題」に加えて、「家庭学習のすすめ」（家庭学習を進めるためのリーフレット）に基づいて、ノート指導の徹底など児童が主体的に取り組む学習習慣を身に付けさせる。

### 3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

#### (1) 目標

- ・ 標準スコア 50.0 未満の教科をなくし、52.0 以上の教科を 11/17 以上とする。
- ・ 全学年、全教科の観点別全 51 項目のうち、全項目で平均正答率が目標値と全国平均値を超える。

- ・ 今年度は標準スコア 50.0 未満の教科は延べ 17 教科中 7 教科から 1 教科に減少した。次年度は全教科 50.0 以上にしたい。また、社会科では標準スコア 52.0 を超えた学年はなく、社会科の対策を強化することで今年度以上の成果を上げたい。
- ・ 観点別の項目で目標値及び全国平均を超えたものは、昨年度は 51 観点中 32 観点（62.7%）であったが、今年度は 51 観点中 45 観点（88.2%）と向上した。引き続き有効であった対策を継続するとともに、相対的に弱点と言えた 2 年生、3 年生及び社会科を強化することで、全項目全国平均値及び目標値超えを達成したい。